

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長

農作物病虫害発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。



地味にすごい 福井

連絡先 福井県農業試験場病虫害防除室

T E L 0776-54-5100

F A X 0776-54-6403

E-mail byogaichu-boujo@pref.fukui.lg.jp



福井県病虫害防除室

Q 検索

令和 7 年農作物病虫害発生予察予報第 3 号

5 月の気象概況

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高いと並みの確率が40%です。

〔水稻関係〕

病虫害名 苗いもち

1 予報内容

発生時期：初発は5月上旬

被害程度：少発、局中発

発 生 量：平年並み、前年よりやや多い

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 育苗施設内の換気に気を付け、過湿にしないようにする。

(2) 育苗施設内や周辺に放置してある稲わらや籾殻は、伝染源となるので除去する。

(3) 発病の恐れがある場合や発生を確認した場合には、液剤、水和剤で防除する。育苗期の薬剤防除は苗いもちだけでなく、本田での葉いもちを抑制する効果がある。

(4) 5月中旬以降の移植栽培では、必ず育苗箱施薬を行う。

病虫害名 褐条病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

1 予報内容

発生時期：初発は5月上旬

発生程度：少発、局中発

発 生 量：平年より少なく、前年よりやや多い

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 催芽、出芽が高温(30℃以上)にならないようにする。

(2) 育苗ハウスの温湿度管理(夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理し、

多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。また、灌水に湖沼や河川の水は使用しない。

- (3) 種子消毒は静水で行い、薬剤を種子へ浸透させる。
- (4) 褐条病はハトムネ催芽器を使用すると発生が多く、温湯消毒では効果が不十分であるので、発病が懸念される場合、催芽時に食酢200倍液を浸漬処理する。
- (5) これらの細菌病は、発病後の防除薬剤（治療剤）は無いので、上記の予防対策を徹底する。

病害虫名 イネミズゾウムシ

1 予報内容

発生時期：成虫の本田侵入初期は5月3半旬頃、侵入最盛期は5月4半旬頃

発生程度：少発、局中発（山間・山沿い）

発生量：平年よりやや少なく、前年よりやや少ない

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 毎年発生が見られる地域では育苗箱施薬を行う。
- (2) 湛水土壤中直播栽培で種子コーティング時に殺虫剤を混入していない場合、被害が大きくなる恐れがあるので観察を徹底し、被害の恐れがある場合は早期に防除する。

病害虫名 イネゾウムシ

1 予報内容

発生時期：成虫の本田侵入初期は5月3半旬頃

発生程度：少発、局中発（山間・山沿い）

発生量：平年よりやや少なく、前年よりやや多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 窒素過多にならないように施肥基準を守る。
- (2) 代掻き時、幼虫や成虫が多数認められる場合は育苗箱施薬を行う。また、イネ活着後、水際付近の茎に成虫が認められる場合には薬剤防除を行う。

病害虫名 イネヒメハモグリバエ

1 予報内容

対象作型：直播栽培、移植栽培（5月下旬以降）

発生時期：加害初期は5月5半旬頃

発生程度：少発、局中発

発生量：平年よりやや少なく、前年よりやや多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 直播は被害を受けやすいので深水を避け、産卵場所となる浮き葉、たれ葉を減らす。
- (2) 発生が多い場合は幼虫発生初期に薬剤を散布する。

【大麦関係】

病害虫名 赤かび病

1 予報内容

発生時期：初発は5月上旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 防除を行う場合、薬剤選定時にRACコードを確認し、同一系統の薬剤の連用を避ける。
- (2) 赤かび病が発生すると、赤かび粒を除去することが難しいので、圃場審査を厳重に行い、発生が見られる場合は、仕分けを行う。
- (3) 揺動選別機で比重の軽い麦は除去する。

【野菜関係】

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ネ ギ	さび病		少 発	平年：やや少 前年：並み	1)適正施肥に努め、草勢を良好にする。 2)同一系統薬剤の連用は避ける 3)液剤散布の際には、展着剤を加用する。
アブラナ 科 野 菜	モンシロ チョウ	加害盛期： 5月中旬	少 発 (局中発)	平年：やや少 前年：少	1)加害初期の若齢幼虫期に防除する。 2)対象作物により薬剤が異なるので、 作物ごとに適切な防除をする。
	コナガ	加害盛期： 5月上旬	少 発 (局中発)	平年：多 前年：やや多	1)定植期から発生初期にかけて防除する。 2)対象作物により薬剤が異なるので、 作物ごとに適切な防除をする。
ウ リ 類	ウリハムシ (越冬成虫)	初発期： 5月上旬	少 発 (局中発)	平年：並み 前年：やや少	1)対象作物により薬剤が異なるので、 作物ごとに適切な防除をする。
全 般	アブラムシ 類	初発期： 5月上旬	少 発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	1)定植期から発生初期にかけて防除する。 2)対象作物により薬剤が異なるので、 作物ごとに適切な防除をする。
	ネキリムシ 類(カブラ ヤガ)	加害盛期： 5月上旬	少 発	平年：並み 前年：並み	1)被害の早期発見に努める。 2)対象作物により薬剤が異なるので、 作物ごとに適切な防除をする。

【果樹関係】

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナ シ	黒星病	初発： 5月上旬	少 発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	1)脱苞期～交配直後に掛けて重点防除する。 2)同一系統薬剤の連用は避ける。
	黒斑病	初発： 5月上旬	少 発	平年：並み 前年：並み	1)同一系統薬剤の連用は避ける。
	赤星病	初発： 5月上旬	少 発	平年：並み 前年：やや多	1)同一系統薬剤の連用は避ける。
ウ メ	かいよう病	果実初発 4月中旬	少 発 (局中発)	平年：やや多 前年：多い	1)常発圃場では予防のため果実肥大期に抗生物質薬剤を散布する。 2)降雹や強風雨が合った場合、天候回復後すみやかに抗生物質薬剤を散布する。 3)防風垣や防風ネットを必ず設置する。
	ウメシロカイガラムシ (第1世代幼虫)	幼虫発生 初期： 4月6半旬	少 発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1)予測したふ化時期の1週間前から越冬雌成虫の産卵および幼虫ふ化時期を観察し、適期(ふ化数日後)に薬剤散布する。 2)越冬成虫のカイガラムシ着生が多い樹ではふ化初期とその7日後の2回薬剤散布する。
	アブラムシ類	加害初期： 5月上旬	少 発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	1)新梢先端部を観察し、発生初期にすみやかに薬剤を散布する。
	コスカシバ	幼虫加害 初期： 4月上中旬	少 発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	1)5月上旬にスカシバコンシを10a当たり50本、枝に設置する。 2)幼虫の侵入部位を見つけ、捕殺する。

【花き関係】

花き名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
キ ク	アブラムシ類	初発期： 5月上旬	少 発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1)同一系統の薬剤の連用を避ける。 2)圃場周辺の除草に努める。
	ミカンカイロアザミウマ	初発期： 5月上旬	少 発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1)同一系統の薬剤の連用を避ける。 2)早期発見に努め、密度の低いうちに薬剤防除する。